

I 学校の概要

学力向上モデル校事業 坂出市立松山小学校

◆児童数及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全 校
1 学級 13 名	1 学級 31 名	1 学級 20 名	1 学級 22 名	1 学級 20 名	1 学級 20 名	2 学級 8 名	8 学級 134 名

○教員数 13 名

◆学校の特徴

本校は、坂出市の北東部に位置し、白峯寺や青海神社、国宝指定の神谷神社など、歴史ある神社仏閣が多い地域である。令和4年度には地域の特色を生かしたふるさと教育を取り入れた道徳教育の推進校として、地域のよさやその特徴を学び、ふるさとを今後も大切に守りたいという強い思いをもつことができた。

本校の教育目標は「かしこく やさしく たくましく」であり、昨年度から「人を大切にする学校」を合言葉に、児童が主体的に活動し、友だちのために役立っているという実感をもつことができる取組を行っている。本年度は、さらに単学級の特徴を生かし、委員会活動や縦割り活動などを通して全校児童一人一人の内面に目を向けた支援を考え、すべての児童が安心して過ごせる学校づくりを目指している。

II 研究主題等

研究主題

自他を認め、多様な他者と共に高め合う児童の育成
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して～

◆研究主題設定の理由

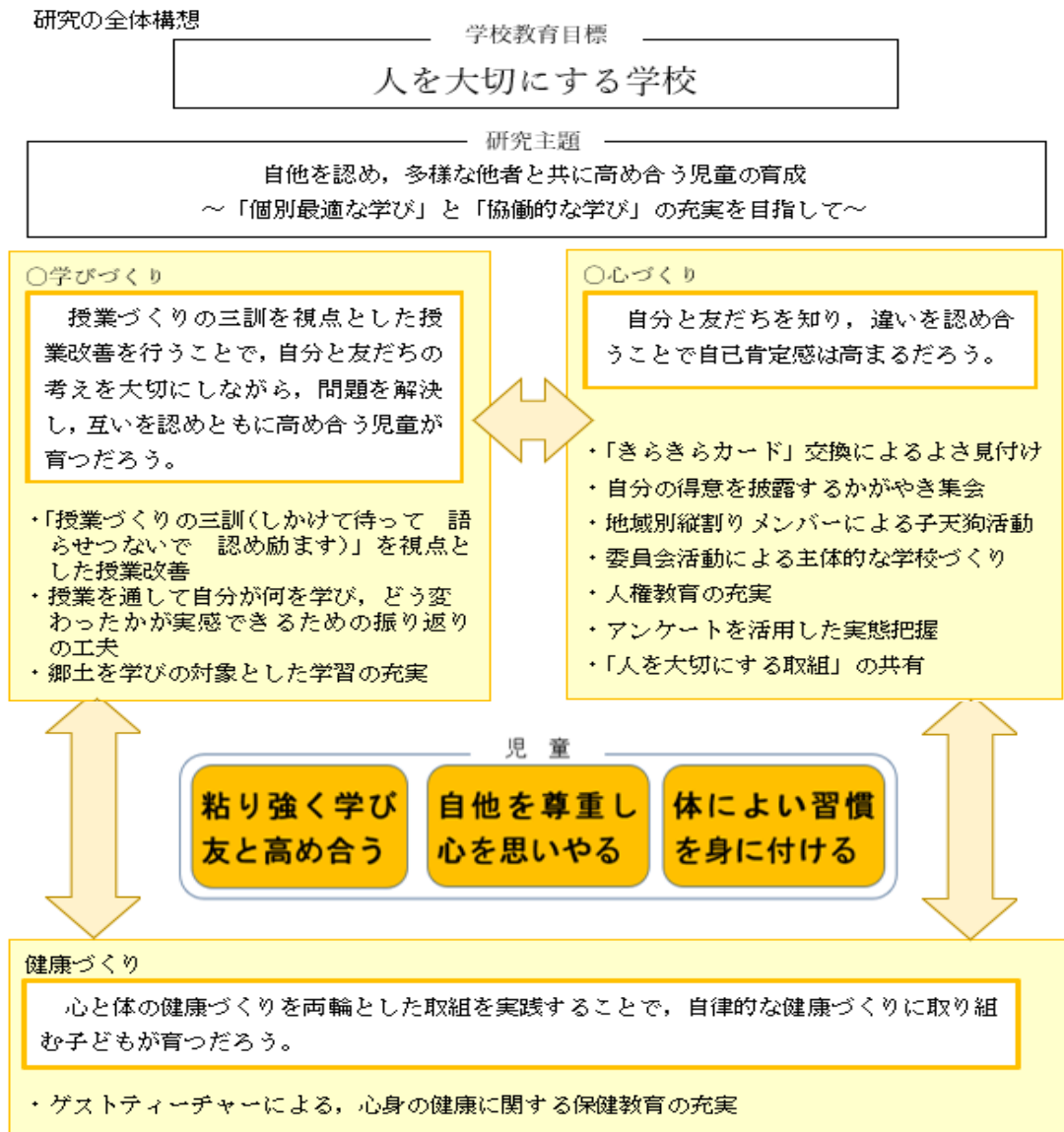
急激に変化し予測困難な現代において、児童には、自己のよさや可能性を認め、多様な他者を尊重し協働しながら、変化を乗り越えていく資質・能力を育成することが求められている。

その結果、現6年生対象の県学力・学習状況調査（5年次）の結果によると、「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていますか」の質問に肯定的に答えた児童は、県平均を6.6ポイント上回っている。また、「普段の授業では、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていると思いますか」の質問に肯定的に答えた児童は、県平均を5.2ポイント上回っている。

また、昨年度11月と今年度4月に全校生対象で行った「今の自分アンケート」の結果を見ると、「私は、自分のことが好きだ」など自尊感情に関する項目が他に比べて低く、自己を肯定的に捉えられない児童が多い傾向がある。一方で、「私のクラスの人、授業中、私の発表をよく聞いてくれる」など居場所づくりに関する項目が他に比べて高く、多くの児童が学級における居場所があると感じている。

これらの実態を生かした協働的な学びのためには、児童が自らの学び方を自覚し、教師は意見を形成するための支援を考えたり、個の特徴を生かした学び合いを仕組んだりすることが必要である。そこで、自分のよさを知ると共に他者を共感的に理解し、児童それぞれの多様な考えや個の特徴を生かした学び合いを通して、学びの質を高めたいと考え、本研究主題を設定した。

◆研究内容及び方法



(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- ・学ぶことに興味・関心を持ち、自己の学習の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ・子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ・習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出だして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

(2) 授業づくりの三訓を視点とした授業改善

本年度は「しかけて待つて」「語らせつないで」を重点項目として、研究授業を行う。

(3) 個別最適な学びの充実

- ・個々の特性や学習状況に応じた様々な学び方の提供
- ・学級の実態に合わせたねらいの明確化と、それに応じた単元構成の工夫

(4) 協働的な学びの充実

- ・児童に語らせ、つなぐことを意識した教師のファシリテーション

Ⅲ 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

1 (教員質問紙) 児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしていますか。

指標 「①よく分かる+②だいたい分かる」の合計



指標の達成に向けた実践

1 個の特徴を生かしたきめ細やかな指導（しかけて待つ）

(1) 児童の特性に応じた指導方法や教材の工夫（指導の個別化）

① 個の特徴や得意・不得意などの把握

特別支援学級（第2学年）国語科「じゅんじょ」の授業では、校外学習で見たみかんの共撰場についての気付きを、順序に気を付けて友達に紹介した。

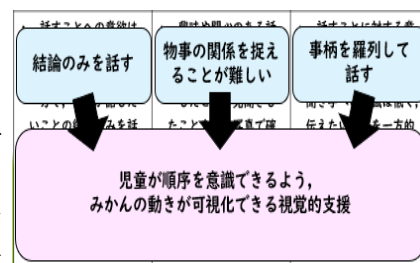
まず、児童が順序を意識して話すことができるか確かめるため、事前に見取りを行った。すると、どの児童も、物事を分かりやすく伝えることに課題があり、全体を把握して物事の順序に合わせて話をするのが難しいことが分かった。そこで児童が順序を意識できるよう視覚的支援を設定した。事前に得意・不得意を把握すると、それに対する具体的支援を考えることができた。（図①）

② 写真やワークシートなどの教具の工夫

経験の想起や順序を意識するためにみかんの動きが分かる全体イメージ図（図②）と、動きを再現することができるペープサート（写真①）を提示した。

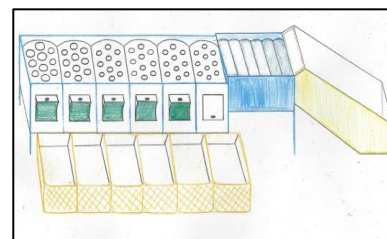
その結果、児童は全体イメージ図の上でペープサートを動かしてみかんが運ばれていく様子を確認したり、気付きを書いたカードを並べ替えたりして、時間や事柄の順序に着目し、友達に共撰場の様子を紹介することができた。

どのじゅんがいいかな。



図①【個の特徴の把握】

友達に分かるように、伝えたいな。



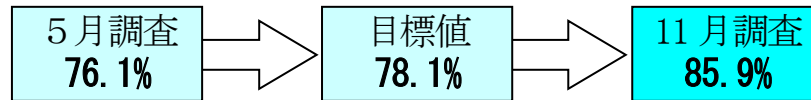
写真①【ペープサート】 図②【共撰場のイメージ図】

(2) 香川大学教育学部 教授 松島充先生のご指導から

人は誰でも分かりやすさに違いがあるということを教えていただいた。児童も教員もそれぞれ得意なスタイルがあるので、「学びの選択肢を増やすこと」が重要である。

2 (児童質問紙) 学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。

指標 「①よく分かる+②だいたい分かる」の合計



指標の達成に向けた実践

1 個の特徴を生かした学びの場の設定 (しかけて待つ)

(1) 自己選択による個の考えの表出 (学習の個性化)

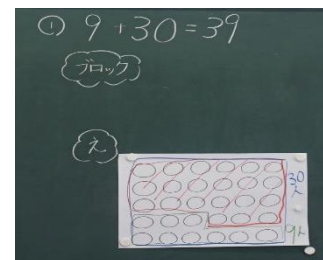
① 自己選択の工夫

第2学年算数科「見方・考え方をふかめよう」では、単元の目標を「増える前の数を求める逆思考の問題を、絵や図、言葉を基にして考え、数量の関係や立式の理由を説明することができる。」と設定した。本単元では、テープ図だけでなく絵や○図など自分に合う方法を選択して考えられるようにした。(写真②, ③)

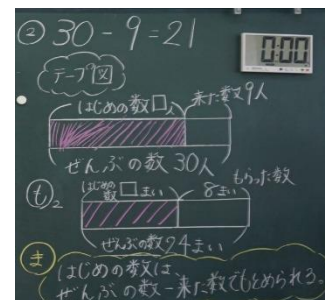
その結果、自分の考えを表現しやすくなり、主体的・意欲的に取り組めるようになった。

② 個の考えを構築し、広げる場の設定 (語らせつないで)

児童の個の考えを生かした交流活動では、たし算だと思う人は赤帽、ひき算だと思う人は白帽、迷っている人は帽子なしと自分の立場を明確にすることで、様々な意見の人と交流できるようにした。まず、自分と同じ意見をもっている人と交流し、自分の意見に自信をもったり新たな考えを獲得したりできるようにした。次に、意見が違う人に説明し、比較することで数量関係を的確に表現した図がどちらなのかを判断し、正しい式を考えられるようにした。

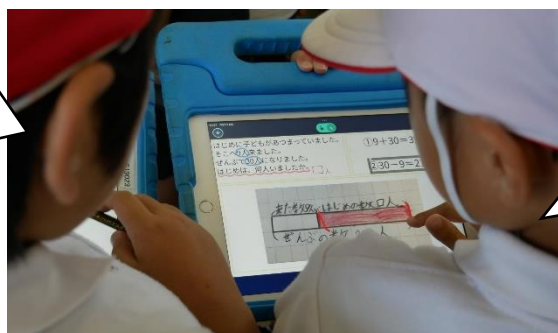


写真②【ブロックや絵の板書】



写真③【テープ図の板書】

ぼくは、たし算
だと思ふよ。
だって、「ぜん
ぶ」って言葉があ
るから、…。



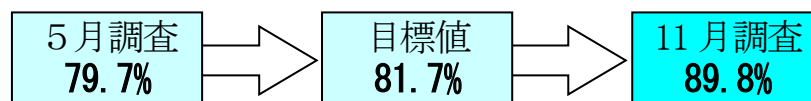
ぼくは、ひき算
だと思ふよ。
だって、テープ図
で考えると、…。

(2) 香川県教育センター 主任指導主事 矢野利幸先生のご指導から

児童だけで学びを練り上げられない場合は、「深い学び」に導けるようファシリテートすることが重要だと再確認した。ねらいに向かって思考が進むように、意図的な指名をしたり、問い返しやゆさぶりをしたり、論点を明らかにして問うたりするなどの方法を教えていただいた。

3 (児童質問紙) 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いをしながら整理して発表する学習活動に取り組んでいますか。

指標 「①よく分かる+②だいたい分かる」の合計



指標の達成に向けた実践

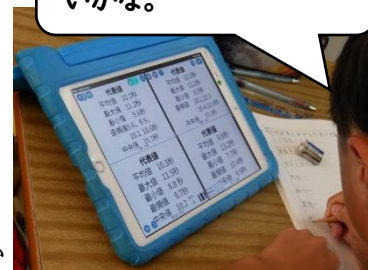
1 考えやよさを生かす協働的な学びの場の設定 (語らせつないで)

(1) 単元を見通した学習活動の流れ

① 自分事として捉えられる学習のめあて

第6学年算数科「データの整理と活用」では、ストップウォッチを見ずに10秒を計測し、10秒に近い人を決める「10秒選手権」の代表を決めるという課題を設定した。本時では、生活班の中で10秒選手権の代表を選ぶとしたら誰がふさわしいのか個人の結果を基に考えた。その際、児童が代表者を選び、その理由を説明する際の具体的支援として「押しポイント」を表示した。これは、代表値のどの数値に着目して代表者を決定したかが分かるように示す目印である。児童はそれぞれに押しポイントを基にしながら、代表にふさわしい児童とその理由を述べる事ができた。「押しポイント」という言葉を全体で共有することで全員が同じ視点をもって話し合い活動に取り組めた。

どの代表値を見たいかな。



② 香川大学教育学部 教授 松島充先生のご指導から

算数の学びとして、本授業では現実の世界での価値観によってどの代表値を選ぶのか異なることを教師が知った上で、授業を構成する必要がある。また、協働的な学びの中で、児童の言葉を教師が言い換えて復唱したり、板書したりすると教師主導の授業になってしまうということもご指導いただいた。今後、教師主導の学びではなく、子どもを中心とした学びを常に意識して授業改善を行っていくことを再認識した。

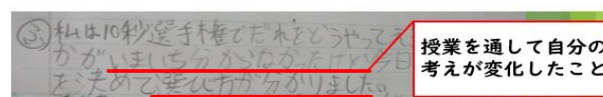
4 (教員質問紙) 授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。

指標 「①よく分かる+②だいたい分かる」の合計

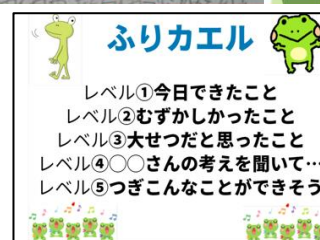


指標の達成に向けた実践

1 自己の変容に気付くための振り返りの視点を提示



自己の変容に気付くための振り返りの視点(図③)を提示した。第6学年の授業では、「授業前と後で自分の考えが変化したこと」「友達との学び合いを通して感じたこと」などの視点で振り返った。第2学年では振り返りの視点を提示した。振り返りをする視点があることで、児童が学習前と後の自分の考え方の変化に気付くことができた。



図③ 【振り返りの視点】

◆特徴的な取組

1 基礎・基本的な知識・技能の習得に向けて

個別最適な学びを充実させるためには、基礎・基本的な知識・技能の習得も必要である。本校では、大きく2つの取組を行っている。

1つ目のチャレンジテストは年5回で、担任が作成した計算・漢字テストを実施している。90点以上を合格点とし、テスト前の10日間を準備期間として定め、チャレンジタイムや家庭学習で練習問題に取り組むようにしている。(写真④)

2つ目は、家庭学習で「自主学習ノート」を行っている、学校と家庭がその意義や学習時間・方法について共通理解して、毎日必ず1ページに取り組んでいる。目標時間は(10×学年+10)分で家庭での学習習慣の定着を目指している。児童のノートは児童玄関に掲示し、他の児童の参考になるようにしている。このように、目標をもって基礎・基本的な知識・技能を習得していくことは、達成感や自信となり、次の学習への意欲になる。(写真⑤)

2 ICT 機器の活用

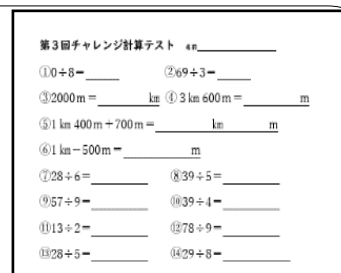
児童は、学習支援アプリを活用し、個人のページで写真や動画を撮って記録したり、考えをまとめたり、調べ学習をしたりすることに使っている。写真や動画、児童の作ったアンケートの結果などがすぐに表示されるため、ノートなどに書くよりも時間がかからない。例えば理科の観察カードは、撮った写真をすぐに使えるので早くまとめられる。(写真⑥) また、教師が児童の良い考えを写真に撮ることで、児童はすぐにテレビ画面や手元の学習支援アプリで友達の考えを確認することができる。

さらに、共有ノートは、友達と一緒に学習を進める時に役に立っている。国語のパンフレットや新聞づくりでは、写真やイラスト、アンケート結果を取り込むことができ、構成や内容もすぐに変更することができる。算数では、生活班で考えを交流する時に、学習支援アプリで考えを整理したりまとめたりできる。(写真⑦) 児童は生活班で考えを交流させ、タッチペンを使って考えが分かりやすくなるように工夫して書き込んでいた。

また、委員会や係活動の共有ノートを作っておけば、児童が自分たちで主体的に活動が進められる。本校では、休み時間に学習支援アプリを使って委員会の仕事を進めている児童をよく見かける。(写真⑧) このように、学校生活全体を通して、教師や児童に合った方法で日常的に活用されているので、ICT機器のよさを実感していると考えられる。

3 自己肯定感や自己有用感の育成

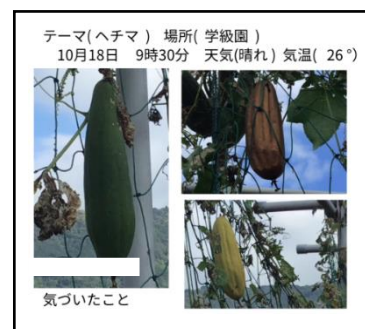
授業だけでなく、学校生活全体で、認め合って協力し合える集団づくりも大切にしている。本校では地区別縦割り活動を行っており、5・6年生が中心となり、遊びの内容を計画・運営している。上学年が下学年と積極的に関わる姿が見られ、学校のリーダーとしての自覚が芽生えている。



写真④【チャレンジテスト2年】



写真⑤【家庭学習の啓発シート】



写真⑥【観察カード】



写真⑦【個別の考えを共有する】



写真⑧【委員会の共有ノート】



Ⅳ 研究の成果と課題

<成果>

○肯定的回答（児童のアンケート結果より）

- ・授業では、話し合う活動をよく行っていると思いますか。(＋4.1 ポイント)
- ・友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。(＋9.8 ポイント)
- ・授業では、自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表をする学習活動に取り組んでいますか。(＋10.1 ポイント)

○肯定的回答（教師のアンケート結果より）

- ・児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしていますか。(＋42.5 ポイント)
- ・普段の授業で、児童生徒の学び合う場を取り入れていますか。(＋36.4 ポイント)

5月と11月に行った児童へのアンケート結果を比べると、話し合い活動に関する項目の質問に、肯定的に答えた児童が増えていた。また、自分たちで課題を立て、それに向けて情報を集めて話し合っていく学習活動についても、肯定的に答えた児童が増えていた。これは本校の教師が、授業の導入から学び合い活動までの流れを意識して、学習指導を行うことができていると言える。教師のアンケート結果からも、児童のアンケートと同様、学び合う場を多く取り入れた学習指導を行っていることが分かる。

<課題>

○肯定的回答（児童のアンケート結果より）

- ・授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。(89.0%)

●課題（教師のアンケート結果より）

- ・授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。(60.0%)

児童のアンケートでは肯定的回答が多いが、教師のアンケートでは他の質問項目に比べると肯定的回答が少ない。そのため、今後は授業の終末で児童が学んで良かったと達成感を感じられるような手立てを考えていきたい。

また、今回は国語や算数の研究授業を中心に個別最適で協働的な学びの一体的な充実について研究しているが、他教科ではどのような充実が図れるのか研究を進めていきたい。